
身代わり

爪切隼介

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

身代わり

【コード】

N0035BA

【作者名】

爪切隼介

【あらすじ】

とある企業の会長の前に殺し屋が現れ・・・

(前書き)

初投稿です。温かい目で読んでもらえれば嬉しいです。

「すみません。あなたM氏でございますよね」

タクシーから降りたM氏は不意に声をかけられふりかえる。肩まで伸びた髪にサングラスをかけたこの男にM氏は怪しいという印象を受けた。

「なんだね君は人に名前を尋ねるのならまず自分から名乗るのが礼儀ではないのかね」

「いえいえ、そんな必要はありませんよ」

男はそう言つて懐から何かをとりだす。黒光りするその物体は拳銃だった。

「ちょ、ちよつとまで、そ、それはいったいどういうことなんだ。

冗談にも・・・」

「ほどがある。ですか？残念ながら冗談じゃあないんですよ。」

男はMの額に拳銃を突きつける。

「なんで私が殺されなきゃならんのだ」

「それはご自身がよくご存じのはずですが」

「ま、まさか！」

Mは、某企業の会長であった。彼は世間の表側だけではなく、政界など裏側にも通じていた。彼を消したいと思う者がいてもおかしくないのだ。

「だ、誰だ、いったい誰なんだ、私を狙っているやつは、山本か、それとも山口か」 男は拳銃の引き金を引く。

「これから死ぬあなたがそれを知っても意味はない」 男は夜の闇へと消えていった。

「会長少しお時間よろしいですか？」

幾人かの重役を相手にワイングラス片手に談笑している会長に囁くように男は話かけた。男はこの会長と呼ばれた男の秘書であった。

「影武者の死亡が確認されました」 その言葉に会長は表情を変え
る。しかし、秘書にはその表情の意味はわからない。

驚きか。

歓喜か。

哀しみではないことは確かだ。

「そうか、片割れが、か・・・」

そう言っつてグラスの中のワインを飲み干す。

「至急、次の準備をするように言ってくれ、データはあるんだろう
？」

「しかし、クローン一体造るのにお金も時間もかかります」

「データがあればわしと同じになるまで一年もかからんだろ。それ
に」

Mは窓越し月を見上げる 「金ならいくらでもある」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0035ba/>

身代わり

2011年12月31日00時46分発行